

関東東北大震災支援活動に参加して

県連 米田 信敏

まず、私は3月10～12日に、全日本民医連の反核平和委員として、辺野古支援行動に参加しました。団長が、全日本民医連副会長の今田先生(宮城坂総合病院院長)であり、個人的にも、親しくしていただき、11日の辺野古基地調査を、ボートで行い、座りこみの浜に上がった、15時ごろ、今田先生の携帯で、大地震を知りました。支援に参加していた、宮城3名、青森1名、岩手1名の参加者は、12日朝、羽田空港まで引き返しました。

私は、14日に、県連に出勤し、事務局長から支援参加要請を受け、ここから、参加を受けました。任務は、支援物資を、坂総合病院に届けることであり、けやき通りメンタルクリニックの岡田さんと、18時半、物資を積み込み、岡山医療生協のコムコム出発。

二人の中では、滞在支援ではないので、「一刻も早く、届ける」を合言葉に、安全に留意しながら、「体力の続く限り」、宮城をめざしました。



ルートは、中国インターの岡山から東京をめざし、15日、朝6時半に、東京着。途中3か所、トイレ休憩のみで、お互い、気持ちの高ぶりもあり、食欲もなく、食事は、車中で、おにぎり、巻きずしをとりました。岡田さんは、「青年食」を食べていました。いよいよ東京から、埼玉の川口インターから、通行止めになっている東北中央道にはいりました。それまでは、夜間高速バスと全く、変わらない時間通りの進行で、

心配していたガソリンも、問題はありませんでしたが、休憩の度に、満タン給油をしました。そして、これからのために、20リットルのガソリンを、常備していました。東北中央道は、警察の「許可書」を見せ、医療支援であることが分かれば、最優先で通れます。給油も、この時点では、救護班は、受けれます。(有料ですが。)

NHK ラジオは、福島原発ニュースを繰り返し報道しています。福島県入りの時は、二人で「窓をしめ、一気に走りぬける」ことを確認しました。(後から、知りましたが、中央道は、原発から、最短で60キロ)中央道で、宮城入り直前で、震度5、車で移動中のものは、徐行運転の指示がラジオで、伝えられ、緊張が走りました。制限速度50キロですが、警察も自衛隊も救



急車も、100キロ前後で走っていましたが、全部、50キロ前後に速度ダウン。私は岡田さんに、「速度50キロにしないと、いざの時、助けてくれないで」とバカ話。

『津波の心配なし』の報道で、再び100キロに。本題ですが、全部で35時間程度の支援のうち、宮城にいたのは、5時間程度。写真を見てください。

東北中央道で、宮城入りし、仙台南インターでおけるまでの、景色は、写真の通り。二人も、言葉もあまりでません。中央道からは、人の姿も家屋も皆無です。

インターから、いよいよ市内に。本来は、二つ先のインターが、最短ですが、インターの出口も閉鎖。

市内は、停電のため、信号も止まっています。交差点では、慎重にすすみます。人のいるところは、スーパー前の物品配給所の行列と、ガソリンスタンドの車の列。(ただし、郡山市等、市外ナンバー)、人は、自転車・歩きで移動しています。



少しの渋滞も、「坂総合病院」の支援ですというと、市民も警察も、最優先です。少し迷い、9時に坂総合病院到着。二人は、「やっと到着」と感動。結果的には、カーナビの時間通りの到着。14時間半の所要時間。病院の1Fが、患者さま受けつけ。約2時間半で、救急車5台程度、歩いて来る患者・車で運ばれる患者で、ゴッタがえしている状態。(後から、思いましたが、病院に来れた患者は。ごくわずかでしょう。)

私たちは、2Fの受付で日帰りの登録。医師・看護婦は、病院中心のボランティア。資材を下ろし任務終了。

帰りは、福島を避け、山形→新潟→富山→石川→福井→滋賀→京都経由で、16日AM1時。岡山着。感じたこと、①ボランティアとは何か。②原発は人災害、③人命救助を再優先に

以上。